

問1 縄文時代の遺跡から数多く出土する、主に女性をかたどったとされる土製の像を何と呼びますか。自然の豊かな実りや、病気・けがの回復を願うまじないの儀式に使われたと考えられているものを選びなさい。（2023年 徳島公立入試 類似）

1. 土偶 2. 埴輪 3. 石包丁 4. 銅鐸

問2 青森県にある三内丸山遺跡の調査によって明らかになった、縄文時代の人々の生活や社会の様子として最も適切な説明を選びなさい。（2023年 徳島公立入試 類似）

1. クリなどの植物を栽培したり、遠方の地域と黒曜石やヒスイを交易したりして、長期間の定住生活を送っていた。  
2. 大陸から伝わった稲作を基盤とし、集落の周囲に深い堀を巡らせて外敵の侵入を防ぐ生活を送っていた。  
3. 金属器を用いた農耕が普及し、王の権威を示すために巨大な前方後円墳を築造する社会を形成していた。  
4. ナウマンゾウやヘラジカなどの大型動物を狩るため、特定の拠点を持たずに獲物を追って移動を繰り返していた。

問3 青森県に位置する縄文時代最大級の集落跡についての記述です。この遺跡では、直径約1メートルもの栗の木の柱を用いた巨大な掘立柱建物跡や、当時の人々が居住した大型のたて穴住居跡が数多く発見されています。この遺跡の名称として正しいものを選びなさい。（2024年 福島県公立入試 類似）

1. 三内丸山遺跡 2. 吉野ヶ里遺跡 3. 登呂遺跡 4. 岩宿遺跡

問4 縄文時代の遺跡から発見される、人間を模した土製品（土偶）に関する記述として、当時の人々の暮らしや考え方を踏まえたものとして最も適切なものはどれですか。（2024年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 自然の恵みや生命の誕生を願う、当時の人々の切実な信仰心に基づき製作された  
2. 亡くなった豪族の権威を示すため、巨大な墓の周辺に副葬品として配置された  
3. 米作りの儀式において、神の依代として用いられた青銅製の道具である  
4. 定住生活が始まったことで、集落の入り口に魔除けとして立てられた石像である

問5 紀元前2000年ごろ、世界でインダス文明が栄えていた時期の日本列島における生活の様子を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2016年 愛知公立入試 類似）

1. 表面に縄の模様がついた厚手の土器を用いて煮炊きを行い、地面を掘り下げて床を作った住居に住んでいた  
2. 薄手で硬い赤褐色の土器を用いて食料を保存し、大規模な水田での稲作を中心とした生活を送っていた  
3. 金属器が伝来して武器や祭祀の道具として使われ、有力な王を葬るための巨大な前方後円墳が築かれた  
4. 土器はまだ作られておらず、ナウマンゾウなどの大型の獲物を追いつながら移動して生活していた

問6 約1万年以上続いた縄文時代の生活スタイルと、そこで使われた道具の関係について、正しい説明はどれですか。（2024年 熊本県公立入試 類似）

1. 磨製石器や弓矢、土器などが使われ、自然環境に合わせた定住生活が行われた  
2. 青銅器や鉄器が普及したことで、大規模な戦争や移動生活が繰り返された  
3. 大型の石造建築が造られ、それらを装飾するために精巧な土器が発達した  
4. 文字が発明されたことで、法律や契約に基づいた高度な都市生活が営まれた

問7 縄文時代の遺跡において、海岸や水辺に近い集落付近で見つかる、食べた後の貝殻や魚の骨、破損した土器などが堆積した場所を何といいますか。当時の人々の「ゴミ捨て場」としての性格を持ち、生活の痕跡（生活跡）を現代に伝えるものを選びなさい。（2024年 大分県公立入試 類似）

1. 貝塚 2. 古墳 3. 環濠集落 4. 高床倉庫

問8 日本の歴史において、縄文時代に定住生活が始まり、生活が安定する中で普及した、表面をみがいて形を整えた石器を何と呼びますか。（2018年 徳島公立入試 類似）

1. 打製石器 2. 磨製石器 3. 青銅器 4. 鉄器

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 土偶	縄文時代には、自然の恵みを祈ったり、病気やけがの回復を願ったりする儀式が行われていました。その際に使われたのが土偶であり、その多くが女性の姿を模していることから、生命の誕生や収穫への祈りが込められていたと推測されています。これに対し、埴輪は古墳時代の古墳の周囲に並べられたものであり、時代が異なります。
問2	<b>答え 1</b> クリなどの植物を栽培したり、遠方の地域と黒曜石やヒスイを交易したりして、長期間の定住生活を送っていた。	三内丸山遺跡では、大型の掘立柱建物や膨大な量の土器が見つかっており、縄文時代の人々が同じ場所に定住して高度な社会を築いていたことが判明しました。クリの栽培や、北海道・新潟など遠隔地との交易の証拠も見つかっており、従来の「狩猟採集のみで移動を繰り返す」という縄文時代のイメージを大きく覆しました。稲作や環濠集落は弥生時代、前方後円墳は古墳時代、大型動物の遺跡は旧石器時代の特徴です。
問3	<b>答え 1</b> 三内丸山遺跡	青森市にあるこの遺跡は、縄文時代中期から約1500年もの長期間にわたって継続した大規模な拠点集落です。それまでの縄文時代のイメージを大きく変える高度な建築技術や、計画的な集落の配置が確認されました。選択肢にある吉野ヶ里遺跡や登呂遺跡は弥生時代の代表的な遺跡であり、岩宿遺跡は旧石器時代の打製石器が発見されたことで知られています。
問4	<b>答え 1</b> 自然の恵みや生命の誕生を願う、当時の人々の切実な信仰心に基づき製作された	縄文時代の人々は狩猟や採集によって生活していたため、自然の豊かさは生存に直結する重要な要素でした。土偶が壊された状態で発見されることも多いことから、病気や怪我を土偶に移して平癒を祈ったり、食べ物の豊作や安産を祈ったりする宗教的な儀式に使われていたと考えられています。選択肢にある「古墳の周辺に配置」されるのは埴輪であり、土偶とは時代も目的も異なります。
問5	<b>答え 1</b> 表面に縄の模様がついた厚手の土器を用いて煮炊きを行い、地面を掘り下げて床を作った住居に住んでいた	この時期の日本は縄文時代にあたります。人々は縄文土器を使って、植物の採取や狩猟で得た食料を煮炊きして食べるようになりました。また、地面を掘り下げて柱を立て、屋根を葺いた「竪穴住居」を作ることで、定住的な生活が営まれていました。他の選択肢は、弥生時代、古墳時代、旧石器時代の特徴です。
問6	<b>答え 1</b> 磨製石器や弓矢、土器などが使われ、自然環境に合わせた定住生活が行われた	縄文時代は、氷河期が終わり温暖になった環境に適応した時代です。すばしっこい小動物を狩るための弓矢や、木の実を加工するための磨製石器、そして食料の加工・保存を可能にした土器など、新しい道具が登場したことで、一定の場所に留まって暮らす定住生活が可能になりました。
問7	<b>答え 1</b> 貝塚	縄文時代の人々が日常生活で出た不要物を捨てた場所です。単なるゴミ捨て場としての機能だけでなく、食べ残された骨や貝殻から、当時の人々がどのような動植物を食べていたか、あるいは当時の気候や海岸線の位置がどこにあったかを知るための貴重な史料となります。
問8	<b>答え 2</b> 磨製石器	旧石器時代には石を打ち砕いただけの打製石器が使われていましたが、縄文時代に入ると用途に合わせて表面をみがき、形を整えた磨製石器が普及しました。この変化は、定住生活の開始や土器の使用といった生活様式の大きな転換と密接に関わっています。